

平成30年度 水稻病虫害発生情報 第1号 (6月下旬)

平成30年6月27日
青森県病虫害防除所

斑点米カメムシ類が平年よりも早くみられています。
畦畔や本田の雑草防除を徹底しましょう。

1 斑点米カメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメ)

《発生概況》

- ① 定点調査ほ場 (青森、木造、鶴田、十和田、七戸、八戸) の畦畔に設置した性フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺は5月末から認められ、誘殺数はほぼ平年並であった (図1、2)。誘殺盛期を6月上旬として、有効積算温度から推定される第1世代成虫発生盛期は7月上旬頃と考えられる。
- ② 県内4か所 (青森、木造、十和田、八戸) に設置した予察灯では、早い所では6月1半旬から誘殺されており、十和田はやや多いが、他の地点はほぼ平年並に推移している (表1)。

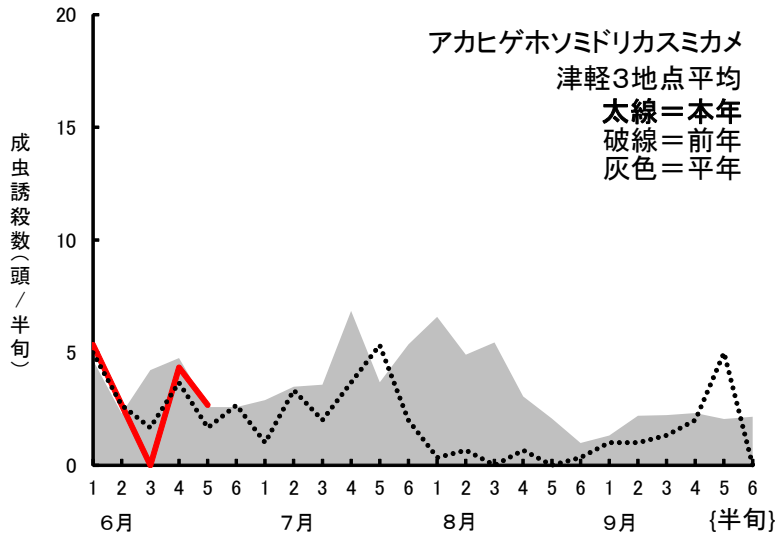


図1 畦畔に設置した性フェロモントラップにおけるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況 (津軽)
※平年値は青森 (前8か年)、木造 (前6か年)、鶴田 (前3か年) の3か所の平均値

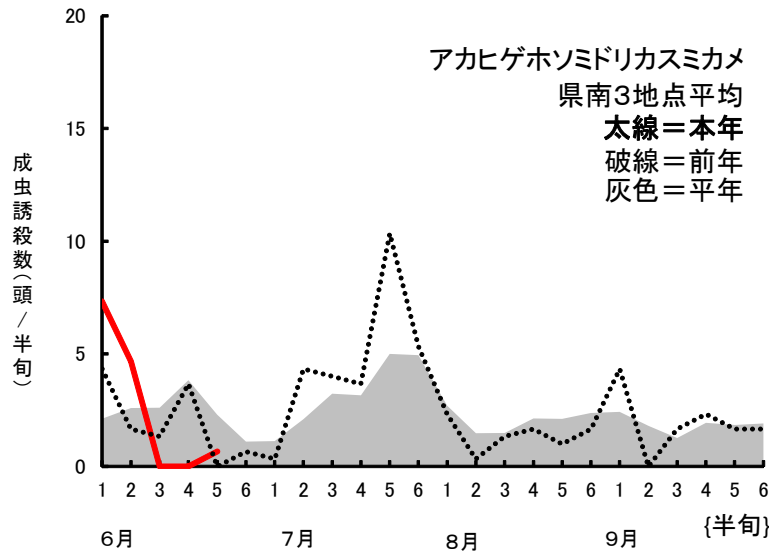


図2 畦畔に設置した性フェロモントラップにおけるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況 (県南)
※平年値は十和田 (前10か年)、七戸 (前9か年)、八戸は (前2か年) の3か所の平均値

表1 予察灯におけるアカヒゲホソドリカスミカメの半旬別誘殺状況

地区名	月 半旬	6						7						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
青森	本年	0	2	0	0									
	前年	0	0	1	0	0	10	6	3	47	45	71	32	
	平年	0.4	0.3	0.3	0.8	0.5	1.7	3.4	17.5	20.0	11.9	21.8	17.4	
木造	本年	2	2	0	0									
	前年	0	0	12	0	0	0	0	12	294	60	195	63	
	平年	1.9	0.8	5.8	5.5	5.2	7.6	16.7	51.9	125.2	31.9	88.0	60.5	
十和田	本年	7	9	0	0									
	前年	2	0	1	1	0	0	2	17	104	47	224	119	
	平年	1.1	1.8	2.3	5.9	2.9	2.1	3.0	49.9	105.0	60.7	82.6	68.0	
八戸	本年	0	1	0	0									
	前年	0	0	0	0	0	0	12	0	34	55	68	19	
	平年	0.3	0.1	0.8	2.8	2.4	1.5	1.9	9.1	37.7	34.9	61.4	62.5	

《今後の防除対応》

- ①7月上中旬はカメムシが増加し始める時期であることから、この時期に除草を行う。特に水田周辺の休耕田や畦畔等では、雑草が開花・結実しないように刈取りや耕起を行い、遅くとも水稻の出穂2週間前までに終わるようにする。
- ②ノビエは斑点米カメムシの誘引源であり、これらが多発している水田では斑点米率が高くなることから、除草と防除を徹底する。また、ホタルイ・シズイはアカスジカスミカメの誘引源となり、多発ほ場では斑点米率が高くなるので、同様に除草と防除を徹底する。

2 イネミズゾウムシ

《発生概況》

- ①発生地点率は津軽地域はやや高く、県南地域は平年低く、食害度は津軽地域、県南地域とも平年並であった。食害程度の高い水田は東青で散見され、三八ではやや目立った。

《今後の防除対応》

- ①食害が多い水田では、次年度以降育苗箱施用剤による防除を検討する。

表2 巡回調査（6月中旬）におけるイネミズゾウムシ被害（食害度）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率(%)					発生地点 率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)	無		
津軽計	本年	40	0	0	7.5	55.0	37.5	62.5	4.2
	前年	36	0	0	16.7	41.7	41.7	58.3	8.0
	平年	34	0	0	5.6	54.0	40.5	59.5	4.5
県南計	本年	29	0	0	10.3	41.4	48.3	51.7	5.9
	前年	33	0	3.0	15.2	48.5	33.3	66.7	9.9
	平年	36	0	0.3	11.5	44.3	43.9	56.1	6.1

3 イネドロオウムシ

《発生概況》

- ①発生地点率ならびに食害度は津軽地域、県南地域とも平年より低かった。中南地域の一部で発生の多い水田が確認された。

《今後の防除対応》

- ①食害が目立ち、幼虫がみられる水田ではすみやかに薬剤散布を実施する。

表3 巡回調査（6月中旬）におけるイネドロオウムシ被害（食害度）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率(%)					発生地点 率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>50)	中(>20)	少(>0)	無		
津軽	本年	40	0	0	0	12.5	87.5	12.5	0.6
	前年	36	0	0	0	8.3	91.7	8.3	0.6
	平年	34	0	0	2.1	24.6	73.3	26.7	1.7
県南	本年	29	0	0	0	0	100	0	0
	前年	33	0	0	0	0	100	0	0
	平年	36	0	0	0.3	4.6	95.1	4.9	0.3

4 フタオビコヤガ

《発生概況》

①発生地点率、食害度ともに津軽地域は平年より高く、県南地域は平年並で、県全体では平年より高かったが、いずれも食害は軽微だった。

《今後の防除対応》

①7月上旬に食害が目立つ水田では薬剤散布を実施する。

表4 巡回調査（6月中旬）におけるフタオビコヤガ被害（食害度）

地域	年次	調査地点数	程度別発生地点率(%)					発生地点率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)	無		
津軽計	本年	40	0	0	0	15.0	85.0	15.0	0.7
	前年	36	0	0	0	19.4	80.6	19.4	0.9
	平年	34	0	0	0	5.9	94.1	5.9	0.2
県南計	本年	29	0	0	0	13.8	86.2	13.8	0.5
	前年	33	0	0	0	15.2	84.8	15.2	0.5
	平年	36	0	0	0.3	12.5	87.2	12.8	0.4

5 イネヒメハモグリバエ、イネハモグリバエ

《発生概況》

①イネヒメハモグリバエの発生地点率は、津軽地域は平年より高く、県南地域は平年並で、県全体では平年より高かった。食害度は津軽地域が平年よりやや高く、県南地域は平年並であった。

②イネハモグリバエの被害は認められなかった。

表5 巡回調査（6月中旬）におけるイネヒメハモグリバエ被害（食害度）

地域	年次	調査地点数	程度別発生地点率(%)					発生地点率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)	無		
津軽	本年	40	0	0	2.5	65.0	32.5	67.5	3.3
	前年	36	0	0	0	47.2	52.8	47.2	0.7
	平年	34	0	0	1.8	46.0	52.2	47.8	2.3
県南	本年	29	0	0	0	31.0	69.0	31.0	2.0
	前年	33	0	0	0	30.3	69.7	30.3	1.2
	平年	36	0	0	0.3	29.9	69.8	30.2	1.2

6 いもち病（葉いもち 初発未確認）

《発生概況》

①6月20日現在、本田における葉いもちの発生は認められていない。

②葉いもちの初発生は、例年7月上旬頃に確認されている。

《今後の防除対応》

①取置苗は葉いもちの発生源となるので、水田内または周辺に放置しない。

②常発地や葉いもちに罹りやすい品種を作付している水田で、箱施用剤や側条施用剤を使用していない場合は水面施用剤を散布する。

③水田をよく見回り、発生を認めたら直ちに茎葉散布を実施する。病勢の進展が止まらない場合は、5日毎位に成分の異なる茎葉散布剤により薬剤散布を行う。

《当情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900
〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6 担当：市田 総括主幹